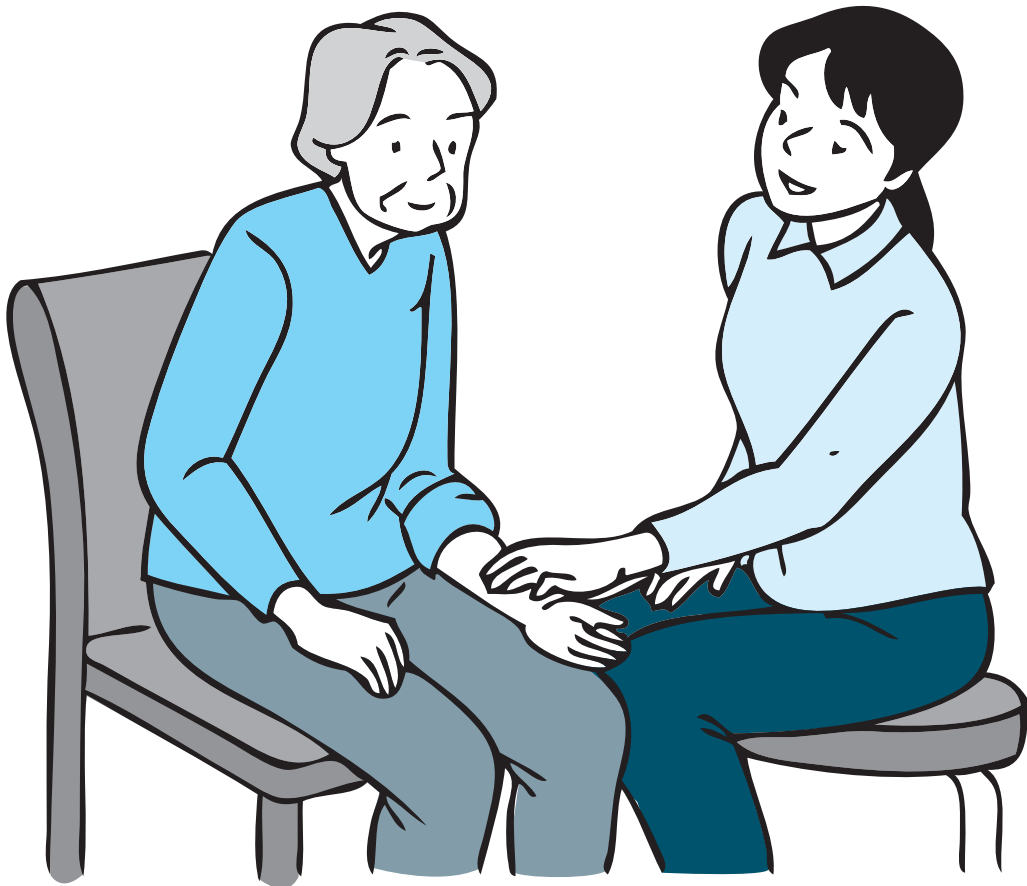


※サンプル(抜粋)

介護スタッフ必携!

医療知識ハンドブック

- 介護スタッフに必要な、基本的な医療知識がこれ1冊で分かる!
- ポケットに入れて持ち歩けるサイズ!
- イラストつきで手順がわかりやすい!



目次

医療的ケアの知識を持とう！	1
介護職員に認められている医療行為	2
介護現場でよく使用される医療用語の略称一覧	4
よく聞くカタカナ医療用語一覧	6
① 高齢者の病気の特徴	7
② バイタルサイン	8
体温測定	9
血圧測定	10
脈拍測定	12
呼吸の確認	14
パルスオキシメーターの測定	15
意識状態（意識障害）の確認	17
③ デイで行う医療的行為のやり方	18
服薬介助	18
外用薬（貼り薬）貼布の介助	20
爪切り	21
④ 緊急時の対応・応急処置	22
窒息に対する対応	22
悪寒戦慄（寒気による震え）を伴う発熱への対応	25
嘔吐への対応と嘔吐物の処理	26
傷の手当	30
やけどの手当	31
ヒートショックの予防法	32

医療的ケアの知識を持とう！

介護サービスを利用する高齢者は、サービス利用中に病状が急変することが少なくありません。介護職員は、ご利用者の身体の異常を早期に発見し、適切な対応をするために、医療的ケアの知識を持つことが求められています。また、医療的ケアの知識を持つことは、日々のご利用者の健康管理に欠かせません。

医療的ケアの知識を持つ必要性

- ご利用者の身体の異常の早期発見と適切な対応のために、医療的ケアの知識を持つことが大切
- 医療的ケアの知識は、ご利用者の日々の健康管理に必要不可欠
- たん吸引・経管栄養のケアは、指定の研修を受けた介護職員のみが医療職と協働で実施できる

現在、介護職員に認められている医療的行為は、次頁のように定められています。また2012年からは、指定の研修を受けた介護職員は、たん吸引と経管栄養のケアについて、医療職と協働することで実施が可能となっています。



介護職員に認められている医療的行為

	可能な行為	内容
1	体温測定	水銀・電子体温計による腋 ^{えきか} 下（脇の下）での体温測定
2	血圧測定	自動血圧計による血圧の測定
3	酸素飽和度測定	パルスオキシメーターを装着し、血液中酸素飽和度を測定（入院治療の必要のない者）
4	創傷処置	軽微な切り傷、すり傷、やけどなどの専門的な判断を必要としない処置（汚物で汚れたガーゼ交換を含む）
5	医薬品の使用介助 <ul style="list-style-type: none"> 皮膚^{なんごう}への軟膏塗布^と（褥瘡^{じよくそう}への処置を除く） 皮膚への湿布の貼り付け 点眼薬の点眼 一包化された内服薬^{えん}の内服（舌下錠^{ぜつ}の使用も含む） 肛門からの座薬挿入 鼻粘膜への薬剤噴霧 	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護職の配置がある場合は、看護職の指導下で実施されるべきであり、看護職によって実施されることが望ましい ● 以下の9要件を満たした場合に限る <ol style="list-style-type: none"> ①入院・入所して治療する必要がなく、容態が安定している ②医師や看護職による連続的な経過観察が必要でない ③内服薬誤嚥^{えん}の可能性がなく、内服薬使用法に専門的な配慮が必要でない ④坐薬を使用する場合に、肛門からの出血の可能性がなく、坐薬使用法に専門的な配慮が必要でない ⑤上記①～④の4要件を満たしていることを、医師または看護職が確認する

血圧測定

- 血圧とは、血液が血管を流れることで生じる血管の壁にかかる圧力のこと

【血圧の正常値】

最高血圧(収縮期血圧) 正常値	成人： 140mmHg未満 後期高齢者： 150mmHg未満
最低血圧(拡張期血圧) 正常値	成人： 90mmHg未満 後期高齢者： 90mmHg未満

- 最高血圧140mmHg以上、または最低血圧90mmHg以上のどちらか一方で「高血圧」となる
- 降圧剤を内服している高齢者は、血圧の変動があるので注意が必要

血圧が高いとき・低いときは

- 降圧剤を服用したか
- 排便の有無
- 十分な睡眠・朝食をとったかどうか



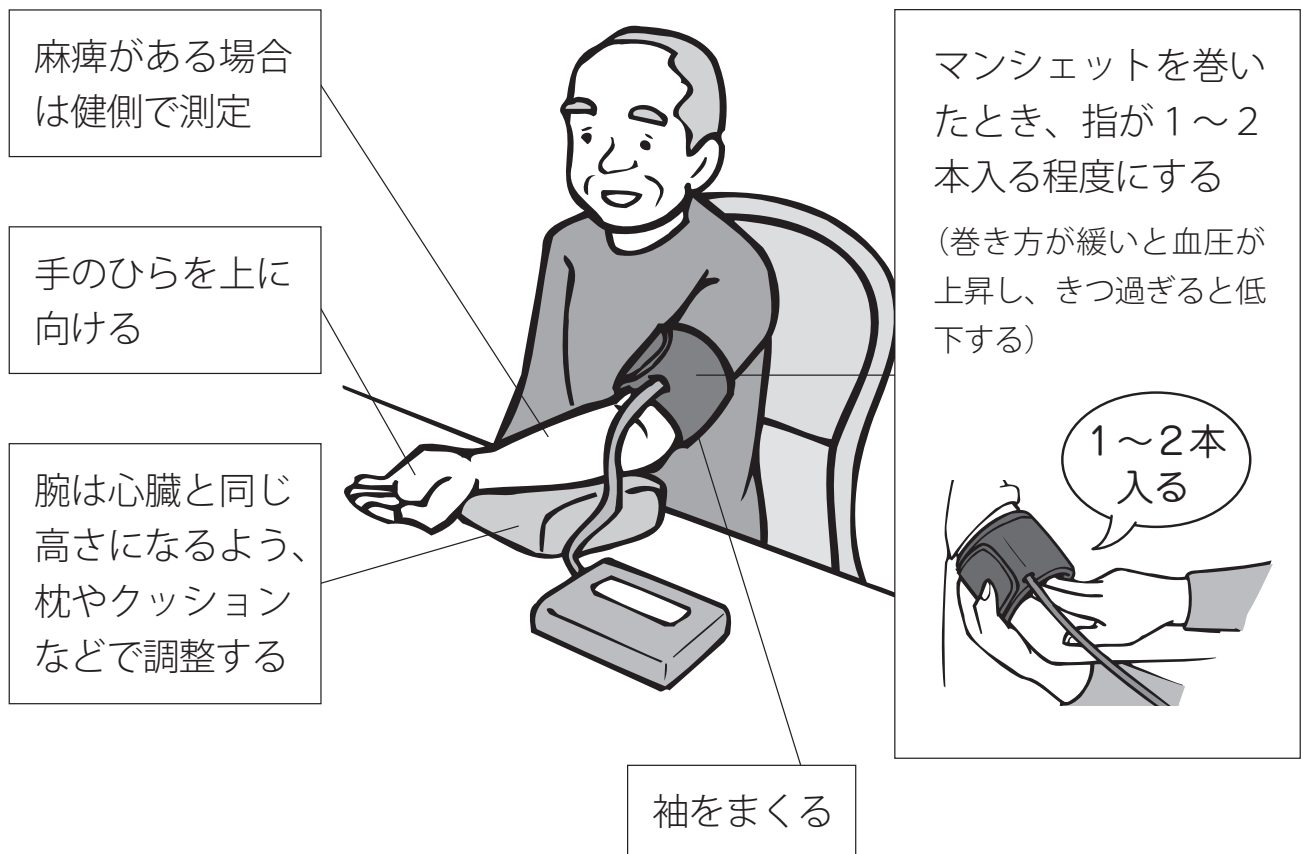
などをご利用者に尋ね、看護師に報告しましょう

血圧が変動しやすい場面

- 運動後（上がりやすい）
- 起床後1時間以内
- 入浴時（下がりやすい）
- 食前・食後
- タバコを吸ったあと（上がりやすい）
- 排尿・排便後

〈自動血圧計の測定方法〉

- ① 座った（もしくは仰向けの）姿勢で安静にし、リラックスするよう深呼吸を2～3回行います（5分以上安静にしていたか確認します）
- ② 腕を机の上に置き、自動血圧計のマンシエツトを巻いて測定します



注意点

- 腕が服の袖で締め付けられていないか確認しましょう（特に冬場は、セーターなどで腕が締め付けられていることが多いので注意）
- 立て続けに何度も測定せず、1回目の測定から2～3分置きましょう（うっ血を予防するため）